

「ぞーっとつながっている命」

お盆に、お墓参りに行ってきたことを話す子どもたちに『いのちのまつり』の絵本を紹介しました。4、5歳児の子どもたちは、初めて目にする絵本を前に、ワクワクした表情を見せていました。



ゆっくりとページを開きながら、子どもたちの命が、おとうさんやおかあさん、おじいちゃん、おばあちゃんと、たくさんの人から受け継いだものであることを伝えていきます。



みんなの命はどこから来たの？
そうだね。パパとママに命をありがとうだね。

パパとママ！



すごいね。先祖の人がひとりでもいなかったらみんなは、生まれていないんだよ。みんなが大きくなって結婚して、子どもが生まれたら、また命はつながっていくね。命って、ひとつしかないステキなものなんだよ…。

自分の命の重みや、つながれてきた命の多さへの驚きが、静かな感重かとなって子どもたちの表情から伝わってきました。



「あまうりはいつ採るの？」

8月のある日、黄色くなった畑のあまうりを、5歳児の子どもたちが張り切って収穫しました。さっそく、給食の先生に切ってもらいましたが…。

採るのがちょっと早かったよ。
えーっ！

いつ採ればいいのかなあ？
わからんねー。

そこで、いつも畑のことを教えて下さったり、世話を下さるシニアサポーターさんに聞いてみることにしました。

シニアサポーターさんは、採れどきのあまうりを、ていねいに教えて下さいました。

ここに傷が出来たら採ってもいいってことだよ。これ傷ついているでしょ。ほら、これを採られ。
本当だ！
うん！

給食の時、採れたてのあまうりを食べた子どもたち。
甘い！
おいしい！
メロンみたい！

みんなで食べる喜びが、笑顔の車輪になって広がって行きました。

シニアサポーターの皆様、いつもいろいろなアドバイスをしていただき、本当にありがとうございます。今年も夏野菜が元気に育ちました。